

柘植地域

まちづくりだより 第193号

発行 柘植地域まちづくり協議会事務局
三重県伊賀市柘植町一〇六四七番地
(柘植地区市民センター内)

発行日 二〇一七(平成)二十九年七月十五日(土)
電話 四五二八八八〇 FAX 四五二八八八三
〒五二九一四〇二

柘植地域内12か所にカラー版設置中です

柘植地域俳句コーナー
投函の
道に越さるる
夏燕

西野登志子

いざというときに備えて…

自主防災実行委員会
6月29日(木)夜、市民センターで今年度最初となる自主防災実行委員会が開かれ、いざというときの災害に備えた体制づくりを行いました。



実行委員会には、各区の自主防災組織の代表者のもとより、東消防署や消防団など消防関係者、行政からは総合危機管理課や伊賀支所振興課、伊賀市社会福祉協議会、保育園小学校、中学校など関係者が参加しています。特に今年は、「三重県総合防災訓練」が11月5日(日)に予定されており、それと合わせて柘植地域においても市を

47人が参加して、人権ワールド

地元いがまち人権センターで
歴史と現状を学び合う…
人権啓発合同事業実行委員会では毎年、2回の人権ワールドワークショップ(近隣と遠方)を行っています。本年度の近隣ワールドワークショップとして、5月20日(土)午前、いがまち人権センター及び前川区内で柘植地域12区からの20代、30代を含む47人の参加者でワールドワークショップを行いました。

いごまちは人権センターの西岡裕崇さんから、地域の移り変わりの現状、いがま

ちで起こる差別事件の概要、いがまち人権センターの役割、取り組みや活動内容などをうかがったあと、2班に分かれて区内を歩き、西岡裕崇さんと中村尚生さんから説明を受けました。



1952(昭和27)年3月の大火事では区内の道が狭く、消防車が入れる道幅がありませんでした。いまも昔の道幅が残っているところがあり、当時は思い起こさせます。ワールドワークショップでは昔の道幅も確認し、同対策事業が行われた経緯と必要性についても考えました。

人権啓発合同事業実行委員会

鳥獣害対策 次のステップへ

生活環境部会

7月8日(土)午後、三重県農業研究所より、柘植地域の獣害対策(特にサル)の現状報告と今後の取り組みに関する提案を行っていただきました。

昨年の段階で、柘植地域に出没するサル(伊賀C群)は、100匹以上ありました。その後の市・県の取り組みもあり約30匹までに減少しました。さらにその中の特に被害の元となっていたサル8頭はプロの手により捕まえることができました。その結果、現在C群は12頭の状況です。これはもとも自然界での生息レベルと考えられます。(これ以上の捕獲は別の問題が生じるため、三重県としてはこのレベルを維持する方針)



ただし、それらのサルもたびたび柘植駅から約500M範囲に出没し農作物や花などを食い荒らしているとの報告もありますが、これらは発信機と受信装置のおかげで、ほぼリアルタイムで現在地と移動推移を確認することができます。

今後、被害の多い地区を中心に住民の手で追い払いチームを組織するなどの方角で考えています。区長部会とも連携して、サルが本来住んでいた一ツ家以東の加太方面の山などにサルが生活拠点を移してしまうように追い払いができればと考えています。

GPSを活用した監視について

パソコンやスマホの検索で、
<https://animalmap.jp/>
と入力すると、ログイン画面が出てきます。

その画面で
mieiga@animal.map.jp と入力
(パスワードは、mirudake)

→地図とサルのマークが出てきます。
サルのマークが直近のサルの居場所です。発信機を取り付けたサルが基地局に近づく自動的にサルの位置情報が更新されます。サルのマークをタッチすると、この場所に居た日時が表示されます。軌跡をタッチすると軌跡が表示されます。

鈴鹿市河曲地区からの視察 ともに将来の住民自治を 考え合いました

7月7日(金)午前、今年度初めての視察研修への対応を行いました。このたび訪問していただいたのは、鈴鹿市河曲地区自治会総代会のみなさんです。



鈴鹿市では、わが伊賀市に遅れること約10年、「自治協議会」の設立が課題となっており、私たちが柘植地域の「区長」にあたる「自治会長」が中心となって来年度設立予定だとか。柘植地域まちづくり協会のありよう、各種事業の様子、防災の取り組みについての説明をさせていただき、意見交流をいたしました。

私たちまち協役員にとっても、改めて、まちづくりについて考え直すよい機会となりました。

いざというときは、救急車

健康福祉部会

7月9日(日)、地区市民センターで30名の参加者が熱中症について学びました。

特別養護老人ホーム「いがの里」より所長さん、看護師さん、介護士さん4名がわかりやすくユーモアを交え、楽しくお話しくださいました。



夏の健康管理：熱中症予防について

熱中症予防
 こまめに水分を取る。
 エアコンを上手に使う。
 (部屋の温度を測る。)

外出のときは防止と日傘
 熱中症の症状
 めまい・失神、筋肉痛、筋肉硬直
 大量の発汗、頭痛・吐き気・嘔吐
 倦怠感・意識障害・痙攣

意識の確認
 ないとき ↓ 救急車を呼ぶ
 あるとき ↓ 涼しい場所に避難
 ↓ 脱衣と冷却 ↓ 水分補給
 ※水分を自分で撮れないとき
 ↓ 救急車を呼ぶ

昨年度まで月に2回、夜間を中心に、柘植地域外縁の不法投棄の監視パトロールを実施してまいりましたが、今年からは、夕方の視界がよいときに、交通安全や防犯も兼ねて、月一回、巡回パトロールを



交通安全・防犯・不法投棄監視巡回パトロール

生活環境部会



詳しくは当日の資料が市民センターにありますのでご覧になってください。
 あと3B体操の福岡先生の指導(写真)で、心と体をリラックスしました。

実施することになりました。

駐在所の中田巡査と各区が輪番でチームを作って、約1時間巡回パトロールをしています。空き巣や車上狙いも報告されています。地域一丸となって防犯・交通安全等に取り組みましょう。



★★★事務局だより★★★
 ▼梅雨本番、梅雨末期を感じさせる蒸し暑さ、そして夕立ちや雷。エアコンのおかげで事務局業務はテキパキと進めることができます。▼しかし九州方面での豪雨災害の情報を聞くにつれ、もし柘植地域でいま被害が出たら、どのように地域として対応すればよいのか、停電などでエアコンが使えなかったら、高齢者をはじめ社会的弱者の方はこの暑さの中、体調管理など大丈夫なのかと思えます。▼トップ記事に掲載した自主防災実行委員会の活動も新体制で徐々に動き始めていますが、災害は突然やってくるもの。各区の区長様も変わったばかりであり、災害対策に空白期間が生じないように、人のつながりを一日も早く太くしていくことが必要です。▼定期総会以後、まち協の行事も様々な分野で取り組みが盛んになってきますが、そうした取り組みを通じて、いざというときのために、日頃からのつながりを深めることが実はもっとも大切な防災対策であると考えたいものです。
 (西田方計)

シリーズ 柘植の歴史と民俗を学ぶ⑨

「柘植のホント!かるた」より

まんじゅじ くに じゅうぶん じぞうそん
万寿寺に国の重文地蔵尊

こみどう かりず じぞうそん
小御堂に仮住まいした地蔵尊

万寿寺の延命地蔵菩薩について

万寿寺の前身は奈良西大寺の末寺で天台宗「徳雲山長福寺」と称し、福地一族の祈願寺であった。

天正伊賀の乱で福地一族が離散した後は廃寺化していたが天和2年(1682)、富田彦六、中江浄林らの努力で再建され宝暦年間(1751~1763)に上野の広禅寺に属し曹洞宗となり万寿寺(萬壽寺)と改称された。(右写真)

富田彦六は福地の本家筋に繋がる人で、裏切り者となった福地の姓を名のれず富田姓に変えていた。彼は長福寺を再興したあと住職を勤め、幼き日の芭蕉(幼名を金作)はその子である宗智和尚のもとで小僧の修行をしていたという。芭蕉の学問の深さ広さはよく知られているところだが、その素地はこのときに培われたのではないかと思われる。

昭和7年3月25日、近くの徳永寺で落慶法要がありその祝いの煙火で万寿寺は昼火災に遭い、本堂・庫裏と観音堂の一部を焼失、本堂内の桃青殿の芭蕉の坐像も燃えてなくなった。幸い本堂の地蔵菩薩坐像はかろうじて持ち出すことが出来たが一部が欠損した。

これを奈良美術院で修復したとき、胎内から「貞治三年(1364)甲辰三月十五日寛慶法橋作子息忍慶助作」と墨書された胎内銘と摺り仏の巻物その他多数の納入物が発見され、昭和11年5月6日国宝(現在は国の重要文化財)に指定された。寛忍二慶の父子は有名な運慶・快慶の流れを汲み南北朝から室町初期にかけ興福寺再建の造像事業で怪腕を振るった名匠である。胎内から見つかった古文書は東京大学史料編纂所史料解析センターの先生方の努力で解読が進み、万寿寺と福地氏の関係や長福寺の開山は鎌倉時代であるなど多くの事が分かった。

本尊・延命地蔵菩薩坐像は木造(檜材)着色の半跏坐像で丈2尺2寸5分(68cm)の寄木造りである。天正伊賀の乱で福地家が没落した後長福寺は荒れてしまうが本尊の坐像は下町の小御堂に預けられたという。小御堂は柘植中学校から100mほど東の大和街道北側にあって現在は小さな石柱が建てられている。もと子守社跡で「込堂」「小御堂明神」とも書かれ地域の人たちは「こみどさん」と呼んでいる。富田彦六らが長福寺を再建したときこの坐像を小御堂から移し勧請したと伝わる。(田中重之)



小御堂跡の碑